

井上寿一 学習院大学長、法学部政治学科教授。'86一橋大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。法学博士(一橋大学)。専門は日本政治外交史・歴史政策論。'14から現職。

高野克己 東京農業大学長。東京農業大学大学院農学研究科博士後期課程中退。農学博士。専門は農芸化学、食品化学。日本食品科学工学会会長、大日本農会副会長。

五十嵐星汝 中央大学キャリアセンターキャリア支援課副課長。'95中央大学商学部卒。商業・貿易学専攻。入学センター事務部入学企画課、広報室広報課などを経て現職。

山戸富美子 松山大学キャリアセンター事務部キャリアセンター課課長補佐。'94松山大学経済学部経済学科卒。卒後本学入職。総合研究所、教務課、経理課を経て、'13から現部署。

小林宣子 明治大学就職キャリア支援部就職キャリア支援事務長。明治大学短期大学卒業。'83年明治大学入職。和泉教務事務長を経て、'15年4月から現職。

宇都宮徹 東洋経済新報社編集局記者、「就職四季報プラスワン」編集長。専修大学経済学部卒。'00入社。「週刊東洋経済」編集部などを現職。

音好宏 上智大学文学部教授。'90上智大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。専門はメディア論。主著『放送メディアの現代的展開』ほか。

長谷川岳史 龍谷大学経営学部教授、教学部長。'97龍谷大学大学院文学研究科博士後期課程仏教学専攻単位取得退学。主著『唯識さとの智慧』など。

千田亮吉 明治大学商学部教授。'84慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。東京国際大学を経て、'99から現職。主著『企業行動の動学モデル』(共著)など。

井上雅裕 芝浦工業大学副学長。早稲田大学大学院理工学研究科博士前期(修士)修了。博士(工学)。'80三菱電機入社、'05から芝浦工業大学教授、'17から現職。

森朋子 関西大学教育推進部教授。大阪大学言語文化研究科後期博士課程単位取得退学。博士(言語文化学)。主著『アクティブライニング型授業としての反転授業』など。

森田裕介 早稲田大学人間科学学術院准教授。'99東京工業大学大学院社会理工学研究科博士課程修了。博士(学術)。'07から現職、'15から大学総合研究センター副所長を兼任。

津田葵 ノートルダム清心学園理事長。大阪大学名誉教授。ジョージタウン大学大学院言語学博士課程修了。EDU(言語学)。ノートルダム修道女会日本管区長。

松並久典 関西大学総合企画室長。'83関西大学経済学部卒。入試センター次長、学長室次長(国際担当)などを経て、'15から現職。'16から学校法人関西大学理事。

加藤睦 立教大学文学部教授。'88東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専攻博士課程単位取得満期退学。専攻は日本古典文学。

今野久男 石巻専修大学事務部次長。宇都宮大学農学部卒。'80農林水産省入職、大臣官房調査官。'92石巻専修大学入職、学務課長を経て、'08から現職。

鐸木道剛 東北学院大学文学部教授。'80東京大学大学院博士課程中退。修士（美術史）。岡山大学を経て、'16から現職。'11セルビア国第三国旗勲章受勲。主著『山下りん研究』など。

山内 洋 大正大学学長補佐、文学部教授。'90大正大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。'16から学長補佐（総合政策担当）。主著として「中島敦『山月記』作品論集」（共編）など。

高橋慈海 大正大学学長室室長補佐（企画調整担当）。大正大学人間学部卒。'97大正大学入職、'16から現職。

角道亮介 駒澤大学文学部歴史学科講師。'12東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。博士（文学）。'14から現職。主著『西周王朝とその青銅器』など。

藤野敦子 京都産業大学現代社会学部学部長、教授。大阪大学経済学部卒。公務員などを経て、'04京都産業大学経済学部着任。博士（経済学）。主著『不思議フランス』など。

永田見生 学校法人久留米大学理事長、久留米大学学長。'73久留米大学医学部卒。医学博士。久留米大学医学部長などを経て、'12から久留米大学学長、'17から現職。

興水大和 '75名大院博（工博）。名大助手、名市工研、中京大教授、情報科学部長などを経て現職。『E2』（フェロー）など。グランド小田原賞（'17精密工学会）など受賞多数。

湯浅茂雄 実践女子大学文学部教授、下田歌子研究所長。'87上智大学大学院文学研究科博士課程満期修了。日本語学専攻。主著『「言海」と近世辞書』。

北川 恵 甲南大学文学部教授。甲南大学人間科学研究所所長。'93京都大学大学院教育学研究科臨床教育学専攻博士後期課程研究指導認定退学。京都大学博士（教育学）。

野村倫子 箏曲演奏家。南山大学経営学部卒。'86正統社准師範試験首席登第。大学卒業後、本格的に箏曲活動を始め、正統社本部講師となる。'93細井豊氏、郁暁光氏と共に『東風』を結成するなど、異種楽器とのコラボレーションを多々行う。

川島 葵 フリーアナウンサー。上智大学文学部卒。'05東海ラジオ入社。'12からフリーとして活動し、「TOKYO UPSIDE STATION」（水曜／金曜）のパーソナリティなどを務める。

〈お断り〉 本稿は、お書きいただいた資料から、できる限り統一して掲載いたしました。

会長の動き 2017年
7月・8月

● 7月4日(火)

第3回常務理事会に出席

● 7月18日(火)

第4回常務理事会、第4回理事会に出席

● 8月2日(水)

全私学連合代表者会議に出席

鎌田会長他全私学連合各団体会長、文部科学大臣、副大臣、政務三役などへ平成30年度予算・税制改正に関する要望は、最重点要望として7項目をとりまとめ、特に学生の修学支援の拡充・強化、大学改革および地方創生への支援強化などを要望した。また、学生の修学支援では、「授業料減免制度」の国私間格差が顕著であるため、これを均等化する新しい考え方（私立大学と国立大学の授業料減免の総額を総学生数で割った金額を、国立私立の学生数に応じて均等に配分）を提案した。

平成30年度の税制改正要望は、学校法人に対する寄附促進を中心に4項目要望しており、寄附税制におけるPST要件

の完全撤廃とともに、寄附文化の醸成を目的に寄附金控除の年末調整などの手続き簡略化を要望した。

● 8月31日(木)

鎌田会長ほか全私学連合各団体会長、新文部科学大臣、副大臣、政務三役を表敬訪問

開催報告

● 7月21日(金)～22日(土)

「第1回財務・人事担当理事者会議」開催

「私立大学における『働き方改革』実現のために『正規・非正規のあり方と長時間労働の是正』」をテーマに、都市センターホテル（東京都千代田区）にて開催。71法人から105名の参加があった。

● 8月1日(火)～2日(水)

8月3日(木)～4日(金)

「FD推進ワークショップ【新任専任教員向け】」開催

「大学教員の職能開発とFD」をテーマに、グランドホテル浜松（静岡県浜松市）にて、模擬授業と参加者同士の意見交換を中心に開催。両日程併せて33大学から

65名の参加があった。

● 8月17日(木)～18日(金)

「監事会議」開催

「監事のあり方と実践」をテーマに、神戸ポートピアホテル（兵庫県神戸市）にて開催。63法人から86名の参加があった。

● 8月28日(月)～29日(火)

「教学担当理事者会議」開催

「大学教育の質保証再考／制度改革の質化に向けて」をテーマに、ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋（愛知県名古屋市中区）にて開催。61法人から66名の参加があった。



私大連盟「財務・人事担当理事者会議」



日本私立大学連盟では、当法人の活動、私立大学の教育研究、管理運営などにかかるさまざまな情報および国の高等教育政策にかかる動向などの社会への発信とともに、情報共有の推進を主目的として、今年度も「私立大学フォーラム（全3回）」を開催します。



お申し込みはこちら
※またはWEBで「私大フォーラム」と検索ください。

第1回（東京） いまどきの学生の懐事情～学生生活のいま～

9月16日（土）13：00 アルカディア市ヶ谷

※無料、定員予約制（200名）

好評のうちに
終了しました

意見発表	小林 雅之氏	東京大学大学総合教育研究センター教授
	北條 英勝氏	武蔵野大学教務部長、 連盟学生委員会学生生活実態調査分科会長
ディスカッション コーディネーター	大内 裕和氏	中京大学国際教養学部教授
	岩重 佳治氏	東京市民法律事務所弁護士

第2回（大阪）「働き方改革」の意義を考える

10月28日（土）13：00 関西大学

※無料、定員予約制（200名）

総論	山田 久氏	日本総合研究所理事兼主席研究員
事例発表	輪島 文氏	日本マイクロソフト株式会社 Office マーケティング本部 シニアプロダクトマネジャー
	越川 慎司氏	株式会社クロスリバー代表取締役 CEO、 元日本マイクロソフト株式会社業務執行役員
提言・ ディスカッション コーディネーター		

第3回（名古屋）私立大学の新たな役割と可能性～産学官連携を中心に～

12月2日（土）13：15 愛知大学

※無料、定員予約制（300名）

講演	大村 秀章氏	愛知県知事
	清水 潔氏	元文部科学事務次官
ディスカッション パネリスト	大村 秀章氏	愛知県知事
	清水 潔氏	元文部科学事務次官
ディスカッション コーディネーター	大西 隆氏	豊橋技術科学大学学長、日本学術会議前会長
	塚原 浩一氏	国土交通省中部地方整備局長
	神野 吾郎氏	豊橋商工会議所会頭
	川井 伸一氏	愛知大学学長
	戸田 敏行氏	愛知大学地域政策学部教授

※2017年9月16日現在

座談会 「全員留学に期待する効果と注意点」

特集 「薬学教育のいま」

小特集 「外国人留学生への就職支援」

表紙・大学点描 東海大学 だいがくのたから フェリス女学院大学

クロースアップ・インタビュー：

「和田由里さん（株式会社花満相談役・企画広報室長）」

編集後記

◆学生の学修時間をいかに把握し、確保していくか、多くの大学で試行錯誤を重ねている現状がある。困難なのは、学生に強制するのではなく、いかに主体的に取り組ませ、学修時間を確保させるかということである。

今回の特集「学生の学修時間確保の現状と課題」では、シラバスの充実、授業時間割の変更、学修成果の可視化、反転授業、学修時間の増大化構想などさまざまな取り組み内容を寄稿いただいた。

今回の各大学の取り組みは、学生に無理を強いるものではなく、自然に学修に取り組めるような工夫がなされている。例えば、アルバイトに時間を費やしている学生も、学修成果が可視化されることによって意識に変化を生じさせることができるかもしれない。

取り組みは、一朝一夕に成就することは難しいかもしれないが、地道に進めていくことが、学生の学修時間確保へ向けての近道になるのではなかろうか。（広報・情報部門会議（大学時報）委員・園田学園女子大学教学支援部教務課 西嶋公哉）

◆小特集「私立大学研究ブランディング事業」では、四つの大学に取り組みをご執筆いただいた。

一つの研究テーマに焦点を当てて大学として取りまとめるだけでも大変であるが、それをブランディング、すなわち大学の名を高めるための事業として推進することは、なおのことであろう。それぞれの研究は、生物・医学に関わるもの、大学の歴史に関わるもの、あるいは地域の産業振興を研究するものなど多様であるが、いずれも複数の分野にまたがる学際的研究となっている。

ブランディングという視点から見て、研究や教育を大学として位置づけることの意義とその重要性をくみ取っていただけたであろうか。高校生や社会から見て、大学全体で取り組む研究課題が明示されていることは、大学を知る上でよいきっかけとなる。「私立大学研究ブランディング事業」は2016年度に始まったばかりである。本特集がさまざまな大学にご参考となれば幸いである。（広報・情報部門会議（大学時報）委員・南山大学理工学部教授 三浦英俊）

◆クロースアップ・インタビューでは、箏曲演奏家の野村倫子さんにお話を伺った。箏曲の演奏家・作曲家で正絃社家元の野村正峰さんと、同じく演奏家の野村秀子さんの三女として生まれ、小さい頃から周りに箏がある環境で育ち、自然に箏を始めていた。

学生時代の途中から正絃社の教室で箏を教えるようになり、その後は、ピアノや二胡、シンセサイザーなどと一緒に演奏したり、ポピュラーミュージックを箏で弾くなど、次々と新しいことに挑戦していった。「もつと気軽に箏に親しんでほしい」「もつと身近に箏を感じてほしい」と願うもの。伝統を受け継ぐという強い意志と箏の新しい可能性を追求することへのためまぬ努力によるものではないだろうか。

インタビューの最中には、野村さんが実際に箏を演奏してくださった。一つ一つの音の迫力と美しい音色に思わず聞き入ってしまった。東京都港区という都会の喧騒におだやかな心地よい風を感じ、清々しい気持ちになった。（日本私立大学連盟事務局 佐藤義文）

